

日本代表チーム欧州遠征 (3)



土砂降りのコース

6月14日（月）

明け方から雨と風が強く、6:00ごろに雨の音が次第に強くなったと思ったら、窓の外を見ると大量の雹が降り始めました。一時は窓が割れるのではないかと思うほど激しく降ってきました。艇の子エツクをするために崎山委員長が一足早く会場に向かったところ、艇やオールに異常はありませんでした。

しかし、会場には大量の雹が積もっており6月とは思えぬ光景でした。艇置き場は芝生のため、ところどころに冷たい水たまりができ、ぬかるんだ状態でした。雹はおさまっていたものの、雷が終始鳴っており、雨も滝のように降っては収まり、の繰り返しでした。

左上下：LW2x上野選手、
上田選手（ともに明治安
田生命）
右上：LM4-（片岡選手
（明治安田生命）、田立
選手（戸田中央総合病院
RC）、西村選手、今井選
手（ともにNTT東日本）
右下：LM4-（杉嶋選手、
石田選手（ともに東し滋
賀）、小林選手（戸田中
央総合病院RC）、陶山選
手（明治安田生命）



このような状況では到底乗艇できないので、選手はテントの中にて限られたスペースと道具でストレッチや補強をして天気回復を待つことにしました。部谷トレーナーは選手にテーブルやイスを使つての補強を指導していました。一部の選手はランニングしに外に行きましたが、雨が強すぎて長くは外にいられなかったようです。コーチ陣はその間昨日の乗艇で違和感を申し出たフルーのリギングを行いました。

昼前くらいになると風が強くなり、コースは海のように白波が立っており、船台が大きく揺れて一步間違えたら水の中に放り出されそうなくらいでした。午後のコンディション回復に期待してひとまず宿に戻りました。

午後は天気が回復するかどうか分からなかったため、希望するフルーだけ会場に行くことにしました。ホテル側の計らいで会議室のような場所を提供していただいたので、ホテルに残ったフルーはその場所で部谷トレーナーによるサポートを受けながらトレーニングいたしました。

会場では変わらず雨は降っていましたが、水上のコンディションは少し穏やかになっており、乗艇することになりました。時差調整のために長い時間は乗艇せず、UTを中心にスタート練習やRace Paceを組み込んで、短時間で集中して水上での確認をしました。おおよそコースを数周したところで全フルーが戻り、体が冷える前に急いでホテルに戻りました。天気に恵まれない日々が続く、環境の変化もあつて、体のだるさを感じることや、体調の管理が難しくなっていますが、チーム全体の雰囲気は穏やかで、このまま気持ちを落とさずレースに臨んでほしいところです。